

太宰府市の地域福祉に関する  
関係団体ヒアリング  
結果報告書

平成 28 年 10 月

太宰府市



# 目 次

<b>I 関係団体ヒアリングの概要</b> .....	1
1. 関係団体ヒアリングの目的 .....	2
2. 関係団体ヒアリングの方法と開催日時 .....	2
<b>II 関係団体ヒアリング結果の概要</b> .....	3
1. 自治会 .....	4
2. 民生委員児童委員協議会 .....	13
3. 福祉分野別の関係団体 .....	21



# **I 関係団体ヒアリングの概要**

## 1. 関係団体ヒアリングの目的

---

---

第三次太宰府市地域福祉計画の策定にあたり、地域における福祉課題や地域福祉推進に向けて必要なことなどを把握するため、自治会、民生委員児童委員協議会及び福祉分野別の関係団体のメンバーに対し、グループインタビューを実施しました。

## 2. 関係団体ヒアリングの方法と開催日時

---

---

質問者の問いかけに応じながら、グループ内で自由に発言してもらいインタビュー形式で行いました。インタビューの時間は、おおむね1時間でした。

グループインタビューは、以下の日時で実施しました。

- ① 梅香苑区自治会  
平成28年7月 4日 15時30分～
- ② 学業院校区民生委員児童委員協議会  
平成28年7月 6日 11時30分～
- ③ 太宰府市長寿クラブ連合会  
平成28年7月11日 10時30分～
- ④ 大佐野台区自治会  
平成28年7月11日 14時30分～
- ⑤ 太宰府東校区民生委員児童委員協議会  
平成28年7月11日 16時00分～
- ⑥ 太宰府西校区民生委員児童委員協議会  
平成28年7月19日 13時00分～
- ⑦ 太宰府校区民生委員児童委員協議会  
平成28年7月21日 10時00分～
- ⑧ 松川区自治会  
平成28年7月22日 10時00分～
- ⑨ NPO 法人太宰府障害者団体協議会  
平成28年7月28日 10時30分～
- ⑩ 太宰府市子ども会育成会連合会  
平成28年7月28日 19時30分～
- ⑪ 都府楼区自治会  
平成28年8月 8日 11時～

## **II 関係団体ヒアリング結果の概要**

# 1. 自治会

---

◆「認知症になっても安心して外出できる自治会をつくろう」、「遠くの親戚より近くの他人」ということを盛んに言っている。共助、互助の雰囲気づくりが究極の自治会の目標であると思う。

- ・ 今私が把握しているのでは、自治会のなかでひとりだけ認知症で外出時のことを心配している方がいるのだが、「認知症になっても安心して外出できる自治会をつくろう」、「遠くの親戚より近くの他人」ということを私は2～3年前から盛んに言っている。共助、互助の雰囲気づくりが究極の自治会の目標であると思う。
- ・ 皆さんが気をかけているというのが一番大事だと思うので、そういうのがずっと広がっていけばいいと思うし、そういう組織をつくりたいと思っている。
- ・ 地域がお互い手を結んでいるいい事例があって、近所の雨戸が閉まったままで、新聞もたまっていて、電話をかけても出ないからどうもおかしいという連絡を受け行ってみたら、倒れていて一刻を争う状態だった。一命を取りとめたが、隣近所の人が無関心だったら、連絡もなかったらどうし絆を感じた。このように、ここに住んでよかったと誇りに思えるような自治会づくりというのが、我々に課せられた課題だと思っている。
- ・ 今、水城西小校区自治協議会で「認知症になっても安心して外出できる自治会をつくろう」というのを、キャッチフレーズとして打ち出そうと言っている。地域に溶け込んでいる人は、いっぱい助けてくれる人がいる。地域の絆は、年を取れば取るほど強くなると思う。
- ・ 地区のなかに、ひとりで暮らしている病気の方がいるが、小地域福祉活動団体で行く旅行に参加したいと申し込まれた。しかし、別に暮らす家族から迷惑をかけると申し訳ないので参加を断ってもらえないかと言われた。この団体は、希望するすべての人でいっしょにやるのが基本なので、お断りはできませんと伝えた。福祉委員にはその方のことを話して、見守りを頼んでいるが、自治会でもその方のことを、知っている方と知らない方がいるので、今度の旅行をいい機会にして、旅行の日からはみんなで気をつけて見守ってもらいたいと思っている。
- ・ 小地域福祉活動団体には夫婦とも補助が必要な方がこられるが、みんなで補助しているので、そういう風にできればと思っている。そのご夫婦の隣の方が、お子さんと連絡を取ってくださったり、夜中もいつも気をかけてくださったりしているので、旅行の日は、私たちが補助するからあなたはゆっくり寝てねと話した。

◆私が一番やりたいと思っているのは、みんなの居場所づくりである。

- ・ 私が一番やりたいと思っているのは、みんなの居場所づくりである。ほかの地域ではサロンを月に1回しているというところが多いが、毎週というところにこだわるのは、月曜日を公民館の開放日にしてもらっており、いつ誰がきても、お茶を飲んでおしゃべりができるという場所をつくるためである。
- ・ 定年になった方が、今日会う人がいるのかいないのか、電話をする人がいるのかいない

のかというのはとても大事なことで、それを考えると長寿クラブやひまわり会という組織は、同じくらいの年代が集まるのでいいなと思う。同じくらいの年代が集まって、そこで話ができるようなしかけができるように、上からの立場ではなく下から接して、できるだけ皆さんに発言してもらえるようにと考えている。

- ・ 民生委員をしているが、公民館の利用が少なかったので、65歳以上の方を対象に女子会メンバーの募集を回覧板で回したら、20名集まった。食事をしたり、島倉千代子さんの振り込め詐欺の歌を歌ったり、体操をしたりと好評である。女子会は、ひまわり会のサロンとは別組織で立ち上がって1年以上になるので、将来ひまわり会の次を担ってくれると期待を持っている。そういう場があれば、結構自然と人が集まる。
- ・ ひまわり会を立ち上げるきっかけは、長寿クラブに入っていない人を何とかしようということで、先行していた松川区に役員5~6名で勉強に行って自発的に立ち上げた。公民館の隣にデイサービスセンターがあったので、こことタイアップしながら場所を借りたり、オブザーバーとしてきてもらったり、いろいろなことをやりながら出来上がってきた。
- ・ 小地域福祉活動団体が今後どのようになってほしいか聞いたのだが、せめて公民館を1週間に1回開けてほしいとたくさんの人に言われた。それはとてもいいことだが、公民館に管理人がないので誰が責任者になるかが問題になる。そのことも含めて考えていかなければいけないという話をした。
- ・ 民生委員の経験から見て、ひとり暮らしの方がひきこもってしまうのが一番困るが、念願だった宝くじ事業のカラオケセットが今年当選したので、同好会を募りながら公民館に行ったら楽しいことがいっぱいあるよと思ってもらえるよう、体制を整えていきたい。
- ・ 待望のカラオケセットがきたので、これを機にカラオケ好きな人もたくさんいるので有効に活用して、家から出てきてもらいコミュニケーションのツールにしたいと考えている。

**◆もう10年くらい、サロン活動に取り組んでいるが、そのなかでは何にもないと来ないということもあったので、毎週何かつくったり、ということを計画しながらやっている。**

- ・ もう10年くらい、サロン活動に取り組んでいるが、そのなかでは何にもないと来ないということもあったので、毎週何かつくったり、ということを計画しながらやっている。
- ・ ひまわり会を立ち上げて今年で17年目になる。奇数月には、ひとり暮らしの方、障がいのある方をお呼びして、ボランティア15~16名でお料理をつくって食事会を行っている。楽しくゲームなどもやって、今のところ何も問題なくうまくいっていると思う。
- ・ 毎月1日に会合をするのだが、奇数月にひまわり会主催の手作り料理をして、偶数月は長寿クラブが幕の内弁当をつくっている。12月だけは合同でしている。ひまわり会と長寿クラブのメンバーは9割方だぶっているが、入れ替わりでやるのが長続きの要因だと思う。
- ・ この間そば打ちをした時は、定員15名だったが、いつもこられる方のほかにも新しい方が参加されてすぐに集まったので、行事も目線を変えて今後はやっていくともう少し掘り起こしになるのではと思った。
- ・ グランドゴルフも福祉部のなかに入っているが、会員が40名くらいで週に2回、月8回練習されるので、ものすごい動員数である。運動が苦手な方はサロンのほうにこられ

るし、あとは福祉部の独自の行事もあるので、延べ人数としてはすごく多い。それでも、行き届かない方というのが課題である。

- ・ ひまわり会の最初の例会の時に、会の皆さんに特技を聞いたところ、お料理や絵手紙、それから朗読サークルに入っている方などいらっしまったので、ここにきてただ出前講座を聞くのではなく、会員さんが積極的に、自分たちができることを言ってくれて、私たちがそれを上手に引き出して、お手伝いをしながらやっていくというのがいいのではと感じている。これからそういうことにチャレンジしていきたい。
- ・ ひまわり会が今回独立したので、これからは役員も会員さんのなかから決めていきたいと考えている。それから、比較的若い会員さんには協力員としてお手伝いしてもらったり、調理教室の講師になってもらったりなど、そういう人を引き出すのが将来の理想である。今のところは、自治会の福祉部会の助けがないと運営できないが、これが自主的にできるところまでいければと考えている。
- ・ 小地域福祉活動団体では年に2回、10時から15時まで開放して男の料理を提供しており、参加費は100円で、みんなでお酒も飲んでいる。自治会からご案内をしているが、参加者は平均20名くらいである。少しずつでも増えていくには、どうしたらいいかが課題である。
- ・ 毎月、ダーツで集まっているので男性もつながりができあがっている。声をかければ集まってくれるという部分はあると思う。ただ、その先の広がりがなかなか難しいので、がんばらなければならないと思う。
- ・ 毎月会長が出している「ふれあい梅香苑」というお手紙があり、各戸に配布しているので、今月は何をするという行事の予定を書いてもらっている。それを見てやってみたいという新しい方が、今日も数人こられた。毎月月末はダーツなので、その日は男の人もたくさんくる。

**◆サロンに参加されない方が一番問題で、どうやってお誘いしていくかを考えて、サロンの中身のこともこれから課題になると思う。**

- ・ サロンに参加されない方が一番問題で、どうやってお誘いしていくかを考えて、サロンの中身のこともこれから課題になると思う。
- ・ 私はひまわり会の立ち上げをしたのだが、その前にまず自治会のなかに福祉部会がなかったのでつくて、それから一斉訪問を始めて6年目になる。ひまわり会はその1～2年遅れで立ち上げた。対象者は100何名おり、顔見知りになることを目標にしているが、参加されるメンバーはだいたい決まっていて、最大40名ほどである。出てこない人を引き出すのが一番の課題だと思う。それから、自由に出入りができ、お茶を飲みながら話ができる、いこいの部屋ができるのが理想である。
- ・ 1週間に1回、月曜日にサロンを行っており、誰でも、そしてできるだけ多くの梅香苑の人にきてほしいという要望があるが、平均して25～26名くらいである。公民館が坂の下にあるので、きたいけどこられないという方もいるので、何とかならないかと思う。何か考えて、公民館を利用してくれる人が増えればと思う。

- ・ 小地域福祉活動団体がスタートして1年半経つが、今はメンバーが固定化しているので、違う人にもきてほしい。すると、いろいろな情報が共有できて、団体自体も広がってくると思う。ただ、今は守秘義務というのがあるので、みんなで助け合おうというのが薄くなってきたと思う。
- ・ 昨日聞いた話だが、くる人の意見はいつでも聞けるので、こない人の意見を拾わないと広がらないということだった。「何でこないの？」ではなく、何かこれるきっかけがあった時に意見を聞いて、要望があればその方と話しあっていくのがいいのではということだった。「こない人はいくら誘ってもこんもんね」で終わらせず、餅つきなどでも出てこられた時に話をしようと思った。
- ・ 今は、ふれあいサロンやいろいろな行事に出てきてくれる人へのフォローはできているが、それ以外の方はどこにひとり暮らしの方がいるのかもわからない。本当に困っている人に対しての支援が、現実にはできない状況だと思う。

**◆幼稚園のお子さんがあるお母さんたちに意見を聞いたのだが、お母さん同士で話す場がほしいということだった。**

- ・ 幼稚園のお子さんがあるお母さんたちに意見を聞いたのだが、お母さん同士で話す場がほしいということだった。子どもたちを送って帰ってくるまでの、10時から13時くらいの時間で、まずは月1回くらい集まればとのことだった。そのあとで、習いごとなどもしてもらえればありがたいという意見が出ていた。どういう風にしていくか話ができればと思う。それから、ほかの自治会で聞いたが、短大の保育科の方を頼むときとれるということだ。
- ・ 私が今思っていることは、ふれあいサロンのなかで赤ちゃんサロンをしたいということで、若い人から意見を聞いたのでそういうことを取り入れていきたい。お母さん同士はしゃべったり、子どもたちは遊べるよう社会福祉協議会からおもちゃを借りたり、お茶を沸かしてちょっとお世話をしながら見守るというようなことができればと思う。自治会長や福祉部長と相談したいと思う。
- ・ 市のほうでもいきいき情報センターでやっているが、ここなら歩いてこられるので数時間の間でも寄ってしゃべってもらって、それをきっかけに輪が広がればと思う。
- ・ 福祉は高齢者だけでなく、梅香苑は就学前のお子さんなど若い方も転入してきているので、公民館が高齢者だけの集まりとならないようにと思っている。

**◆ひまわり会のボランティアの方は、自主的に集まってくれた敬老会に出るような高齢者なので、後継ぎがない。**

- ・ ひまわり会のボランティアの方は、自主的に集まってくれた敬老会に出るような高齢者なので、後継ぎがない。
- ・ 今まで福祉関係に携わった方が、任期が終わって辞めたあと、今まで経験してきたことを生かして協力員という形で残っていただいて、何か協力できるところは声をかけていっしょにやっていける方法があればと思う。しかし実際は、もう終わったからという気持ちのほうが強く難しい。

- ・ 私は、市のOB職員がもう少し自分の住んでいる地域のために、目を向けていただき自治会の役員なり、民生委員なりになっていただくような動きがあってもいいのではと思う。

**◆転入してきた若い年代の人たちがいて、あまりかかわりを持ってないのでさみしいという話を聞いていた。「懇親会やるけん、集まれ」とポスティングしたら、12名きた。今年は総会で青壮年部をつくった。彼らは今年もとても張り切っている。**

- ・ 転入してきた若い年代の人たちがいて、あまりかかわりを持ってないのでさみしいという話を聞いていた。数えると若い男性が20人いたので、「懇親会やるけん、集まれ」とポスティングしたら、12名きた。それがきっかけで、2年目には夏祭りの手伝いをしてくれて、今年は総会で青壮年部をつくった。彼らは今年もとても張り切っている。正式に自治会の組織として予算も組んだので、夏祭りで子どもたちを喜ばせるためにこんなことをしようと話しあっている。それまでは、私たちも馴染みがなかったし、若い人たちも古い人たちとなかなか馴染めてなかった。何かあった時にはやはり若い方の力を借りないと、高齢者ばかりでは大変なのでいい機会だったと思う。
- ・ 避難行動で、何かの時は助けてくださいと支援していただける方を探しても、自分が高齢者なのでとなかなか同意していただけない。だから、若い人に期待している。長い目で見て、若いうちに団地の皆さんと仲良くしておくことで、将来何かあった時には助けられると思う。

**◆福祉部がなかった頃は、訪問しても民生委員には関係ないと言われることが多かったが、今は会うたびに、見守ってくれていると思うだけで安心感があり元気が出るからありがたいと言われるようになった。福祉部が地域にとってどれだけ大切かということ、体験として感じている。**

- ・ 福祉部がなかった頃は、訪問しても民生委員には関係ないと言われることが多かったが、今は会うたびに、見守ってくれていると思うだけで安心感があり元気が出るからありがたいと言われるようになった。福祉部が地域にとってどれだけ大切かということ、体験として感じている。
- ・ 従来は民生委員で独居世帯を訪問していたが、民生委員にはお世話にならないとなかなか玄関を開けてもらえなかった。そこで、年に3回一斉訪問ということで、民生委員と福祉委員がペアになって、自治会の福祉部会として訪問したところ、私のためにそこまで自治会が気を遣ってくれてありがたいと、ひとり暮らしの方と非常に近くなった。

**◆民生委員と福祉委員との連携が取れていないと少し感じている。どうすみ分けをされているのだろうか。**

- ・ 民生委員と福祉委員との連携が取れていないと少し感じている。どうすみ分けをされているのだろうか。
- ・ 福祉委員として、社会福祉協議会などの研修会に毎回参加しているが、それを自治会に帰って活かしていないところがあり反省している。民生委員とももっと交流したほうがいいとも思うが、民生委員の立場や守秘義務もあるので、私自身どうしたらいいのかわからない。このことは自治会長や福祉部長とも話しているところである。

- ・ 今までは福祉委員というのは、自分よりもっと先輩の方がやるものという考えが私のなかにあったのだが、そうではなく子育て中の方や、働いている方などが集まれる場を設けてほしいと自治会長より声をかけていただいたので、そういうことを少しできればと思っている。

◆**今、問題を抱えている家が何軒かあるのだが、民生委員は、自分が持っている情報は個人情報になるという理由で自治会とは別に動かれるため連携が課題である。**

- ・ 今、問題を抱えている家が何軒かあるのだが、民生委員は、自分が持っている情報は個人情報になるという理由で自治会とは別に動かれるため連携が課題である。
- ・ サロン活動はどんなに参加者が少なくなっても続けていこうと考えているが、参加されないひとり暮らしの方などをフォローしたくても、民生委員のように権限があるわけでもなく、民生委員が持っている情報は守秘義務があるのでわからない。
- ・ 福祉に関しては活発だと思うが、ひとり暮らしでさびしくしている人を見落とさないよう、民生委員の力がほしいと思う。
- ・ 高齢化が進んでおり、みんなで福祉に取り組みたいと思っているので、民生委員の守秘義務がどこまでの範囲のものか社会福祉協議会に確認した。すると、守秘義務はあるが、地区によっては、民生委員も一緒になって見守りをしているところもあると聞いた。お世話をする人数も限られているので、民生委員には守秘義務があって入り込めないとなると、地域としては問題で、民生委員とタッグを組まないと福祉はすすまないと思う。
- ・ 役員会には民生委員は役員ではないためこられない。民生委員も区の役員として役員会には常にきていただき情報提供してもらって話し合える形にしたほうが良いと思う。
- ・ 普通のサロンにはあまり参加されないが、大きな行事の時には、福祉委員より声をかけて民生委員にきてもらっている。この間、ひとり暮らしの会を持った時には、前回参加された方以外は連絡先をキャッチできていないので、それ以外の方には民生委員にお願いしてご案内を渡していただいた。それで、新しい方がこられて長寿クラブにも入ってもらえたので、今回はとてもありがたかった。
- ・ 民生委員としては、あくまで何か問題があって、自分のところに相談にこられたら対処するという考え方もあるようだが、私たちは「〇〇さんはこのような問題があるので、見守ってください」というような情報がほしい。福祉委員は名簿も何も持っていないので、見守りといっても実際はきてくださる方のフォローしかできない。

◆**自治会によっては福祉部がないところもあり、民生委員との連携の仕方はそれぞれの地域性がある。**

- ・ 自治会によっては福祉部がないところもあり、民生委員との連携の仕方はそれぞれの地域性がある。市が統一するという話も出ていたが、なぜそこまで市が干渉するのか、自治なのでそれぞれの地域の実情に合った体制づくりをしないとすすまないというご意見もあった。
- ・ 民生委員を自治会の役員に入れるのは難しい。自治会役員には福祉部長もいるし、民生委員を入れると福祉委員はどうするかということもある。みんな入れてしまうとかな

かまとまらないと思う。体制としては、福祉部長がいてある程度方向性を決めたと後に、福祉委員や民生委員がいるといったほうがまとまると思う。逆に、入れる入れないという前に、この福祉事業は誰を中心にやっていくという位置づけをきちんとしたほうがいいと思う。

◆**地域のなかに相談できる人がいない現状もあるようなので、隣近所、両隣という小さい範囲のなかで見守りができる方法がこれから必要になるのではと感じている。**

- ・ 地域のなかに相談できる人がいない現状もあるようなので、隣近所、両隣という小さい範囲のなかで見守りができる方法がこれから必要になるのではと感じている。
- ・ 向こう三軒両隣という話では、松川区は行政区から自治会に切り替わった時に、隣組 20 組中 2 つの組だけが年に 1 回集まっていたが、18 組は年に 1 回も集まりがなく、そういう機会がいつの間にか途絶えている状態だった。そこで、自治会の方針として年に 1 回以上は隣組で顔を合わせるということをめざして、お茶代の予算も取っているので会を持ってくださいと 7 年間取り組んできた。今では、18 組が集まるようになっており、1 泊旅行までする隣組や食事会をやっている隣組も出てきている。自治会の活動の一番の下支え、基本になるのが隣組だと思うので、ぜひ校区自治協議会や自治会の指針のなかに隣組内での顔が見える関係づくりというのをに入れてほしいと思う。
- ・ なごみ会といって、ひとり暮らしの方と日中独居の方を対象に、年に 2 回バスハイクや公民館での食事会を行っている。梅香苑には百何十名もそういう方がおられるそうだが、30 名くらいしか知らない。組長はだいたいわかると思うので、組長に尋ねてはどうだろうか。
- ・ 組長が面倒を見るのではなく、状況を報告してもらってそれをまとめる体制を自治会でつくったらいいと思う。
- ・ 組長さんから報告を受けるシステムだけは、つくったほうがいいと思う。しかし、回覧板を手渡すということすらできていない。
- ・ 今は、各組長は総会と年度末の 2 回しか集まらないので、あと何回か集まって各組の状況を尋ねるのが習慣になればと思う。

◆**若い人はほとんどが共働きで、小学校や中学校の行事もあるというなかで、自治会のほうまで出る時間がないというのが現状である。理想は組長が最前線にいることだが、現状は難しいと思う。**

- ・ 以前、いろいろなイベントは各組長にひとつずつ割り当ててやってもらってはということ提案したが、それもうまくいかなかった。若い人はほとんどが共働きで、小学校や中学校の行事もあるというなかで、自治会のほうまで出る時間がないというのが現状である。理想は組長が最前線にいることだが、現状は難しいと思う。
- ・ 組のなかで誰か亡くなられた時は、自治会長に必ず連絡をしていただき、自治会としてお参りに行くというのが慣例として続いてきたが、新しくこられた若い方などは組のなかの事情が全然わからないので、それですらうまくいっていない状況である。なかなか

難しいと思う。

- ・ 集金も、以前は2～3か月に1回は回っていたが、今は1年に1回である。

◆自治会の役員だけでなく、あまりに情報が広がっていくとトラブルになる。

- ・ 自治会の役員だけでなく、あまりに情報が広がっていくとトラブルになる。
- ・ 何年前か、組長もみんな集まって自己紹介などする会のなかで、福祉見守り隊ということで、「ここに参加されている方はみんな自治会の福祉見守り隊員であり、1年で役が終わったら隊員を辞めるのではなく、役が入れ代わるたびに隊員が組内に増えていくのがいいのでは」と毎年提案していたが、そういう認識が根付かないまま消えてしまった。
- ・ 以前、見守り隊をつくって見守りをしたことがあったが、「この地区の〇〇さんはこれこれで、この家はこのような状況なので見守って」とあまりにもリアルな情報もあり、それが問題になって解散したという経過がある。

◆個人情報どうこうではなく、自治会の役員が把握しておく必要があると思う。

- ・ デイサービスの車も地区のなかで見かけるが、誰がどこのデイサービスを利用しているかなども、個人情報どうこうではなく、自治会の役員が把握しておく必要があると思う。
- ・ 見守り活動は、民生委員2名と福祉委員3名の5名でやっているのだが、長寿クラブでも友愛活動という見守りをしているので、3者で見守りをしている。見守り訪問のリストは同意を得た人の名前なので、民生委員に限らず福祉委員も友愛活動でも使っているが、未だに守秘義務とか個人情報などを理由に福祉委員や長寿クラブでは見られないとか、だからやりにくいなどの話を他の自治会から聞く。自分の自治会では名簿が今3つあって、日常見守りの同意者、避難行動要支援者の同意書、あんしん情報キットを受け取る時の同意のサインだが、自治会役員がみんな共有している。

◆向こう三軒両隣とよく言うが、今は逆があって近所の人には家のなかを見せたくないというのがあるので難しい。

- ・ 向こう三軒両隣とよく言うが、今は逆があって近所の人には家のなかを見せたくないというのがあるので難しい。よその地域からきたシルバー人材の人には頼めるという人もいたので、簡単に向こう三軒両隣という言葉を使えない。
- ・ 自分の両親は関東に住んでいるが、自分たちの生活を他人にさらけ出して助けてもらうとか、行政につなげて援助してもらうなどの感覚からとても遠いと感じている。私が担当した方も、状況がわからないまま元気でいますと聞いていて、知らない間に施設に入っていたということもあった。ある意味、年代によっては助けてもらうことを恥と考えていたり、他人さまに迷惑をかけてはいけないという考えが前提にあたりるので、今の段階で自分の家族を施設に入れていいものかと考えてしまうようである。

◆お手伝いのポイント制度があれば、今まで人に親切にしてきたことが返ってくるという考え方ができて、サポートしてもらう時に精神的に楽だと思う。

- ・ お手伝いのポイント制度があれば、今まで人に親切にしてきたことが返ってくるという考え方ができて、サポートしてもらう時に精神的に楽だと思う。

- ・ 今、太宰府市で健康ポイント制度があるが、同じように健康な高齢者が健康でない高齢者をサポートして、何かお手伝いをすればポイントになるという制度があればと思う。そのポイントは、自分が何かしてほしい時に使えるようにすれば、隣の人と仲が悪くて頼みたくないという人にとってもいいのではないか。そういうシステムが必要だと思う。
- ・ 高齢者支援員を利用して、少し片付けてもらったり、重たいものを移動させてもらったりすればいいと思う。
- ・ シルバー人材が、500円で短時間でできるちょっとしたお手伝いをしている。自治会でも、500円でお助け隊をしているところがある。もとは無料で始めたそうだが、逆に気を遣ってコーヒーを準備したりケーキを買ってきたりお金を包んだりするので、割り切って500円をもらったほうがお互いにいいようである。

**◆校区自治協議会のなかには、福祉委員会がないところや、会議に自治会長だけが集まっているところもあり濃淡がある。**

- ・ 校区自治協議会のなかには、福祉委員会がないところや、会議に自治会長だけが集まっているところもあり濃淡がある。
- ・ 太宰府市の小校区については、自治協議会ができて7年になるが、防犯と体育と福祉の3つの委員会を立ち上げて、いろいろな活動をされている。しかし、自治会長、福祉委員、防犯委員、体育委員だけで活動されているので、将来の自治協議会のモデルとして、まちづくり協議会的に協力関係にある団体も取り込んで、横の広がりをそろそろ考えていかないといけない。
- ・ 太宰府小校区自治協議会は活動がすすんでおり、毎月の役員会に民生委員の代表、社協の代表、小中学校PTAも必ず参加して、たまに交番や筑紫青年会議所などの関係団体にも参加してもらっている。何か連絡や依頼事項がないか話してから、団体間の連携のための調整など、本来の自治協議会を行っており、形ができつつある。

## 2. 民生委員児童委員協議会

---

### ◆認知症は確実に増えているが、それを認めない家族もいて、近隣の方のほうに火事を心配されるなど、そこをどう持って行くかが難しい。

- ・ 認知症は確実に増えているが、それを認めない家族もいて、近隣の方のほうに火事を心配されるなど、そこをどう持って行くかが難しい。最近少し言動がおかしいので時々見てほしいと要求されることもあるが、それでも家族が認知症を認めず認定審査もまだ大丈夫と言われることが結構ある。
- ・ 夫婦で妻が認知症という例が多いが、いろいろとサロンなどに誘っても、トイレが近いからなどご主人がしっかりガードしてしまって、なかなか外に出してくれない。逆に、女性は男性が認知症になったら割と外に出そうとする。出さないというのは、地域の活動に出さないという意味でもあり、地域の人に認知症であることを知らせないという意味でもある。
- ・ 夫が認知症の妻を外に出さないというのは、一番は迷惑をかけたくないということがあると思う。あとは、恥ずかしいとか隠したいということもあると思う。
- ・ 認知症の方は増えていると思う。認知症で大変なのは、家族の方がなかなか認めてくれない時である。お子さんは側にいても気づかれず、ご本人は認めなかったので、奥さんがひとりで悩まれていたケースがあった。その方は、公民館にはこられていたので、状況がわかって幸いだったが、お子さんに認知症と認めてもらって病院に連れていってもらうまでに数年かかって、本当に大変だったと思う。
- ・ 認知症はだいたい家族が一番ご存じなく、どこまで伝えるかというのは難しい問題である。
- ・ ご家族と同居をしているけど病気かなという方がおられた時に、その方と私自身がつながることが難しい現状があり、家族の方がお仕事で日中いないとなるととても気にかかる。

### ◆ひとり暮らしの方は確実に把握ができているが、ふたりの世帯は見落としがちだと思う。今、80～90代でふたり暮らしという世帯が増えてきている。

- ・ 私が気になっているのは、高齢者ふたりという世帯である。ひとり暮らしの方は確実に把握ができているが、ふたりの世帯は見落としがちだと思う。今、80～90代でふたり暮らしという世帯が増えてきている。
- ・ ひまわり会は、ひとり暮らしの方が対象であるが、高齢者のふたり暮らしの方も対象にしようという話が出ている。

### ◆買い出しやゴミ出しなどの日常生活の困りごとについては、高いニーズがある。

- ・ 買い出しやゴミ出しなどの日常生活の困りごとについては、高いニーズがある。最近あった例としては、元気な高齢者が骨折して洗濯物が取り込めなくなって、風呂にも入れないということで民生委員に助けてほしいという相談がきた。今晚や明日のことで困っているのだが、包括で申請しても1か月はかかってしまう。結局シルバー人材センターの家事援助を紹介したが、2,800円もかかってしまう。今のシステムでは、制度の谷間の部分で即解決ができないことが問題だが、このようなことは今後も起こることが想定

される。日常生活における支援を自治会で立ち上げていくことが課題だと思う。

- ・ 市では対応できないゴミ出しのお手伝いなど日常のちょっとしたことを、ボランティアが若ければできるだろうが、自分たちも高齢になってきているため手が届かなくなっている。
- ・ 高齢者が高齢者を助けられるような仕組みを構築できればと思う。
- ・ ゴミ出しについては役所の環境課からいい知恵をいただいた。階段を、ゴミ袋を持って降りられないという相談者がいて、大袋ではなく小袋2つにしたらどうかと教えていただき、目からうろこで解決した。現場でやり取りしないと出てこない解決方法だと思う。
- ・ 不燃物については集積場まで持って行かないといけないので、高齢者だけでも家の前に出せないか市と掛けあってもらえるよう、自治会長にお願いをしている。
- ・ 車の免許を返すと買い出しに行くのが困難になる。近場にあったスーパーが無くなってきていて、買い出しに行く距離が遠くなっている。

**◆何かサロンなどするとすぐに集まるようだが、よく見てみると参加される方はいつも同じ方なので、結局そこからもれた方が問題なのではないかと思う。**

- ・ 何かサロンなどするとすぐに集まるようだが、よく見てみると参加される方はいつも同じ方なので、結局そこからもれた方が問題なのではないかと思う。
- ・ 昨年から福祉部ができたので、行事を企画しご案内をするがこられる方は決まっている。
- ・ やはりくる人はくる、こない人はこないのだが、なるべくこられるように心掛けている。
- ・ ひまわり会ということで全年齢を対象にしたサロンをやっているが、やはり子どもの参加は少なく、またくる人は決まっており、「あの人が行くなら行きたくても行けない」という方もおられ、呼びかけても出てきてもらえないのがさみしいところである。
- ・ 女の方は、ひとりではなかなか参加する勇気がないようなので、仲がいい方から誘ってもらったりすると出てこられたりする。
- ・ 公民館でサロンをやっていると、あの人が行くなら行かないという方もおられるので、各地区の公民館単位で複数のサロンがあってメンバーが違ふとこられる人もいると思う。
- ・ 高齢者サロンで、折り紙や体操などするとできない方は「私はできない」と帰られることもある。また、やらない方にほかの人が「何でせんと」と言われたりもする。そういう方は、次はこなくなるので、自由に折り紙でもトランプでもおしゃべりでも何をしてもいいのがサロンというようにしたほうがいい。
- ・ サロンにくる男性が少ない。
- ・ 4年前から、自治会の福祉部主催で日帰り旅行をしている。ひまわり会や長寿クラブなどは出席者が限定されているが、この日帰り旅行には毎回初めて見る方が参加される。そういう施策を意識的に打って、新しい方も公民館に足を運ばせようとしている。併せて今やり始めたのが映写会である。こちらでも毎回30~40人の方がこられている。市内に映画クラブがあって1回3千円くらいで来てくれるので、あとはお茶とお菓子を準備するくらいなので、1回5千円くらいの安上がりな施策である。これも、公民館にきてもらうためのしかけであり、このような活動が44自治会に広がればと思うが、なかなか難しい。このような活動に出てこられると、夏祭りや餅つき大会にも徐々に参加され

るようになる。ただ、これも自治会に入っている人しか参加できない。日帰り旅行は、昨年までは65歳以上の方をご案内していたが、自治会長からみんなに呼びかけてほしいということをご提案された。オープンにするとバス3台くらい必要になるので、今年は60歳以上の方にご案内をした。

◆**私自身マンション住まいなので今まで地域のことは参加していなかったが、地域活動のなかに入り込んで逆から見ると、やはりそういうところへの入り込みに対し、多くの人が一歩引いているので、そこが課題だと感じた。**

- ・ 私自身マンション住まいなので今まで地域のことは参加していなかったが、地域活動のなかに入り込んで逆から見ると、やはりそういうところへの入り込みに対し、多くの人が一歩引いているので、そこが課題だと感じた。生活保護を受けている方もいるが、まずそういう方は地域に入り込めていない。
- ・ 私が感じていることだが、40年前に梅香苑に家を持った時、子どもがまだ小さくて20代30代だったお母さん同士は、子どもを通して顔見知りだったので今でも心やすくおつきあいができる。しかし、今80歳前後の方々は、引っ越してきた時が40代50代くらいなので夫婦でお仕事をされて家にあまりおらず、ご近所とおつきあひもあまりしなかったという方が多い。そういう方は、40年経って体が段々弱くなっている今でも、ご近所とおつきあひをしない方が多く、公民館の催しに出てくる方が少ない。独居の方はさみしいだろうと思う。
- ・ 自治会の会員になっていない高齢者を民生委員としてどうするかということがある。自治会内に高齢者専用アパートがあり、この方たちは自治会に入っていない。福祉部活動は自治会としての活動なので、そういう方々はふたりの民生委員でまわらなければならない。

◆**私が感じるのは、民生委員側からは数が足りないということなので、民生委員を増やす運動を展開しているが、自治会長によっては民生委員は必要か、または足りているというご意見もあり、進め方が難しい。**

- ・ 私が感じるのは、民生委員側からは数が足りないということなので、民生委員を増やす運動を展開しているが、自治会長によっては民生委員は必要か、または足りているというご意見もあり、進め方が難しい。
- ・ ひとりが受け持つ世帯数が多く、組長会議に出席させてもらえればもっと福祉の課題をつかめると思うが、自治会のほうからは民生委員は組長会議とは別と言われるので遠慮しているところがある。福祉課題をうまく解決するために、自治会の体制も変化させてほしい。
- ・ 地区によっては組織が大きくて、既存の長寿クラブやひまわり会や福祉部の形ができ上がっており、役員も昔からのベテランの方がいて活動が定着しているところがある。そういう地区は民生委員が入りにくい事案もある。今まであまり活動がなされていなかったという地区は、民生委員の出番が多い。

◆うちの区は、昔民生委員は自治会役員ではなかったのに、町内で何が起きているのかわからなかった。そこで、話し合いなどに入れてもらって話を聞かせてほしいとお願いして、今は民生委員も役員になっており、町内ですることはみんな話して決めている。

- ・うちの区は、昔民生委員は自治会役員ではなかったのに、町内で何が起きているのかわからなかった。そこで、話し合いなどに入れてもらって話を聞かせてほしいとお願いして、今は民生委員も役員になっており、町内ですることはみんな話して決めている。
- ・月1回の自治会の役員会に入って報告をしているので、何かあった時は電話をくださいとお願いしている。少しずつ区の皆さんが情報をくださるようになり、動きやすくなった。
- ・私は民生委員と自治会がうまくやらないといけないと思う。広報するのも自治会長から出してもらえないといけないし、本当の課題は全体を見て集まりなどにかかわりを持たない人をどうするかだと思う。
- ・うちの地区は、昔からいる方と新しい方が混在しており、自治会長の選び方もこの年代の次はこの年代というように、代々譲られていっているのでも上の世代とのかかわりもあって、自治会長とは何でも話せて、何でも相談できる関係である。
- ・自治会長にいろいろとご相談ができるので恵まれていると思う。
- ・サロンは健康推進員が企画するとか、バスハイクは婦人部が企画するなど一人ひとつ役割を持たせているが、やるのは役員みんなでするので、町内のことは民生委員もみんなわかっていてとてもいいと思う。
- ・自治会の役員には入っていないが会合には出ている。
- ・私はオブザーバーとして役員会には出ている。そうでなければ、地域のことはわからない。
- ・オブザーバーとしては議決権がないので、評議員などを兼任しないと福祉は伸びないと感じている。
- ・自治会といっしょに活動しないと横の意見が聞けない。
- ・各自治会でばらつきはあるが、傾向として各自治会から民生委員というものに対しても手当を出しているところが増えつつある。
- ・44自治会の民生委員が全部自治会とのかかわりをやっているとは限らない。できれば、44自治会で民生委員が評議員になって評議員会に出席したり、隣組長会に出席したりしてほしいと思っている。

◆サロンにこられる方によって情報が得られるので、参加させてもらったほうが私たちの行動が少し軽減されると思う。

- ・サロンにこられる方によって情報が得られるので、参加させてもらったほうが私たちの行動が少し軽減されると思う。
- ・自分の担当する方が50人いたとしても、ひまわり会にかかわることで地域の方が把握されている情報を教えてくださるので、訪問軒数がかなり減る。サロンは元気な方がこられているので、話をすることで親密になれる。ひまわり会やサロンへの参加は、民生委員の仕事と密接なものと感じている。
- ・民生委員のなかには、ひまわり会のなかから情報をもらうために、スタッフとして深く

関わっているところもある。

- ・ やはり公民館活動がある時には顔出しをしたほうが、どういう人がこられたかがわかる。
- ・ 民生委員である私が会計をやっているので、毎回サロンがあれば出て行く。
- ・ 民生委員がサロンをしかけた区もいくつかある。
- ・ 民生委員の新任研修のなかで、ひまわり会やサロンなどには極力入って、高齢者とかかわりを持ってもらい、推進役となるのがよいと推進している。サロンなどにかかわることは見守りや支援にとっても有効である。

**◆支援をする人と受ける人との温度差や、自治会の役員と民生委員との温度差を感じる時がある。支援を受ける方のなかには、公民館までは行きたくないが時々は家にきて話してもらいたいという方もいる。**

- ・ 支援をする人と受ける人との温度差や、自治会の役員と民生委員との温度差を感じる時がある。支援を受ける方のなかには、公民館までは行きたくないが時々は家にきて話してもらいたいという方もいる。しかし、自治会は出てこない人に何とか参加してもらいたいので、行事を企画すると、少しでもたくさんの人にきてもらおうとするが、案内をもらうのさえ苦痛な方もいるので、日頃の訪問活動だけでいいと言われていることを説明しても、なかなか自治会の理解を得にくい時がある。
- ・ サロン活動や自治会の活動などに民生委員はなるべく出てきてと言われるが、仕事を持っているので休みの日に出てこられない方への訪問をしており、それが一番しなければいけないことと考えているので、土日に自治会の活動に出て行くと訪問の時間がなくなってしまう。見えにくい活動のため、民生委員は活動していない、出てこないと誤解される時がある。
- ・ 公民館に出てこられる人はお元気な方なので、こられない人を民生委員が見守っていかなければと思っている。
- ・ 公民館活動に出てこられない方や行くことが大変という方が何人かいるので、強化月間の時に訪問した。顔を見てお変わりないか、会話の中から困っていることはないかを感じ取ることしかできないが、それでも困りごとを見落とさないよう、できるだけ訪問を重ねていきたいと思っている。
- ・ ある程度、活動の線引きをしたほうがよいと思う。サロン活動などは自治会主催で福祉部がやり、民生委員はひとり暮らしで出てこない人を見守り、何かあった時は民生委員もお手伝いをするというスタンスが一番いいと思う。
- ・ 今までは、福祉委員が企画物を担当して、民生委員が訪問活動をするというスタンスでうまくいっていたが、民生委員の活動は見えにくいので活動していないと見えたようで、民生委員で企画物はどうかと提案がされたことがあった。福祉部が主催したものに一緒に参加するのはいいが、企画運営からは難しい。線引きが大事だと思う。

◆私も、訪問してもなかなかお会いできない方がいて、ご近所の方に様子を見てもらえるようお願いをしている。声をかけても返事がない方に対して、どこまで入っていったいいのかわからない。

- ・ 私も、訪問してもなかなかお会いできない方がいて、ご近所の方に様子を見てもらえるようお願いをしている。声をかけても返事がない方に対して、どこまで入っていったいいのかわからない。
- ・ あそこの奥さんが心配という情報をもらって訪問したとしても、会うこともできないし、こんな風に聞きましたよと言うこともできないし、こっちはお手上げだ。
- ・ 今まで3年間、訪問しても会えず気にかけている方がいる。夜は明かりがついていたり、昼は窓が開いていたりと人の気配はあるのだが、チャイムを押しても出てこられないし、ポストに伝言を入れても反応がない。そういう方に対して、どこまで対応すればいいか皆さんにお聞きしたい。
- ・ 新しく地域にこられた方は、民生委員をすんなり受け入れてくれるが、昔から住んでいる方は拒否される時がある。
- ・ 高齢者の方やひとり暮らしの方へは、福祉委員や健康推進員が訪問してまわっているが、やはり拒否される方がいる。その中には、敬老会やサロンにも参加されないのだが、自治会費をずっと納めてきたのに、行事に参加する人だけが恩恵を受けているのが不合理だというご意見もある。3回に1回でもいいので、顔を出していただければと話しているが、対応が難しい。
- ・ 公民館に出てこられない方々をどのようにお相手していけばいいかは課題であるが、こちらが入り込もうとすると拒絶されるので、民生委員という言葉あまり使わないほうがいいと感じている。特に70歳以上の年齢の方々は、以前は民生委員は生活保護に関わる見守りが多かったのでそのイメージがあり、民生委員という言葉に抵抗があるようである。
- ・ 拒否される方のなかには、まだ現役で働いているから必要ないと言われる方もいるので、そういう時は「何かあったら公民館に連絡してください」と伝えてつないで終わっている。
- ・ 行政のお世話になる自分ではない、近所の方に支援を受けていると取られたら自尊心が傷つくと、はっきりと言われる。そういう方には、電話をしますねと話している。
- ・ 参加されない方に対しては、突然家を訪問しても私たちの顔を覚えてもらっていないので、あんしん情報キットなど何かの用事の時に訪問して少し話をするようにしている。ただ、インターホンが外になかったり、門扉に鍵がかけてあったり、また電話番号もわからないので、訪問できない方がいるというのが悩みの種である。
- ・ 高雄区は民生委員が3人いるので、公民館で何かある時はできるだけ出て皆さんのお話を聞くようにしている。それは、今個人情報の関係で個人的にはなかなか自宅へお話を聞きに行きにくくなっているということがあるからだ。公民館で「最近〇〇さんは元気がない」など教えてもらって訪問しても、自分のことを教えたくないという気持ちがとても強い。特に家族には、自分が困っていることを言いたくないようで、どうしたらいいものかと思う。



◆市の方は、間に入ってつないでくれるだけでいいと言われるが、地域包括支援センターにつないだあとも相談の電話がくるので、どのような対応をされているのか心配になる。

- ・市の方は、間に入ってつないでくれるだけでいいと言われるが、地域包括支援センターにつないだあとも相談の電話がくるので、どのような対応をされているのか心配になる。
- ・地域包括支援センターにつないだ方から、早朝に電話がかかってきたりするので、気になって定期的に訪問しているが、どこまで入り込んでいいのかわからない。市のほうからはもう支援団体につないだので民生委員は何もしなくていいというようなことを言われたが、本人に聞いてもこられていないとのこと。どのような対応をされているかなど地域包括支援センターから何も連絡がなく一方通行なので、もう少しお互いに情報交換ができる場を持つか、情報を流してもらえないかと思う。月に1回でも2回でも訪問しているなどの情報が入れば、それだけで私自身も安心できる。それと同時に、民生委員としてどのように対応すればいいかなど、アドバイスをもらえるとすごく気持ちが楽になる。

◆うちの地区は長寿会がないので、公民館に出てくる機会がなかなかなく、今は私のほうから出向いて見守っていくやり方をしている。長寿クラブを復活させたい。

- ・うちの地区は長寿会がないので、公民館に出てくる機会がなかなかなく、今は私のほうから出向いて見守っていくやり方をしている。長寿クラブを復活させたい。
- ・ひまわり会は社協への登録が急激に増えており、44の自治会のうち42の自治会が登録申請している。しかし、既存の長寿クラブ、子ども会、母子寡婦の会は会員が減って、組織としても減少している。福祉を推進する計画をつくる時に、何もしなければ減っていくばかりの既存の団体をどのように手当てするかを考えなければと思う。太寿連を退会している自治会も多い。連合に加入していると役員も回ってくるし動員や何だといろいろ大変だし、連合からもらえるお金もわずかなので、私の地区でも毎年脱退して自分のところでのびのびしようという話が出ている。
- ・公民館の催しが興味のあることや楽しいことだったら、自然と参加者は増えると思う。老人会は今人数が少なくて止めるところもあると聞かすが、うちの地区はどんどん増えており、先週土曜日は会員56名中53名が出席していて、こんなにすばらしいことはないと話したのだが、やはり考えるほうも楽しいことを企画しなければと思った。

### 3. 福祉分野別の関係団体

---

◆積極的に友愛活動をしており、〇〇さんには誰が話をするかと具体的に担当も決めてやっているが、それでも発掘されない方がかなりおられる。

- ・ 積極的に友愛活動をしており、〇〇さんには誰が話をするかと具体的に担当も決めてやっているが、それでも発掘されない方がかなりおられる。
- ・ 友愛訪問は会員になっている方だけが対象だが、会員増のためにも時々会員でない方も訪問している。ひとり暮らしの方が多い。
- ・ 太寿連がやっている友愛活動をきっかけに何か手を打っていただけないか。友愛活動は地域に密着しているので、一番基になる気がする。
- ・ 「向こう三軒両隣」というような思想を復活させて、きめ細かくできればいいなと感じている。
- ・ 一番ネックになっているのが個人情報保護であり、市も民生委員も情報は出さないの、我々としてもなかなか取っかかりができない。しかし、私はそういう取っかかりは組織でやるより、やはりその地域の人たちの人間関係をいかにつくっていくか、盛り上げていくかということが一番の原点だろうと思う。

◆仲間が増えないのが一番問題だと思う。ひきこもっている人を引っ張り出すのは難しく、何かアイデアがないかと思う。自治会役員をした人ですら、また役員をしたくないと入らない状態である。

- ・ 自分としては、仲間が増えないのが一番問題だと思う。ひきこもっている人を引っ張り出すのは難しく、何かアイデアがないかと思う。自治会役員をした人ですら、また役員をしたくないと入らない状態である。人を集める方法を、市や社協がいっしょになって考えてほしい。
- ・ 長寿クラブに入ってもらうことで、お互い交流を深められたり、積極的に外に出たり、生きがいになったり、健康をすすめて生活の基礎になるのではと思うので、我々は組織のない地域にもアプローチをしている。しかし、実態としてはかなりの方が家に閉じこもっており、そういう方を掘り起こしていくにも太寿連にも限界があるので、地域ぐるみ、横のつながりですすめていかなければと思う。
- ・ 現在、太宰府市は65歳以上が26%強で、太寿連の会員が1,346名、加入率は7%台なので、100人中90人以上の方が組織に入っていないということになる。そういう方々がどうしているのかが、我々の一番の問題である。
- ・ 市全体で見ると、23の行政区にしか長寿クラブがなく、入りたくても入れないという状況なので、そこをもう一回よく考えてほしい。
- ・ 太宰府市全体で見ると、加入率7%ということで全く誰も入らない地域の典型的なもので、入っている人が珍しいといった雰囲気である。
- ・ 年寄りが年寄りを見ているような状態と、役員のなり手がいないということが問題ではないか。

- ・ 加入は、最近地域によってとてもばらつきがあり、隣も入っているから私も乗り遅れたらいけないという隣組もあれば、誰も入っていない隣組もある。今まで入っていなかった人も、隣が入ったらまたその隣、またその噂を聞きつけて私もと一気に加入することもある。

◆**会員が増えないのは、やはり人間関係の問題もあると思うが、増やすのは大変苦勞する。**

- ・ 会員が増えないのは、やはり人間関係の問題もあると思うが、増やすのは大変苦勞する。
- ・ 私は老人クラブにしても敬老会にしても、やはり組織というのは大事だと思う。敬老会は、お年寄りの人生の経験を生かしてほしい、大事にしよう、教えてほしいということではまったのだが、市のほうも大変なお金を使っても半分も出てこられないし、私の自治会は老人クラブの加入者も 70 名くらいである。皆さん人間関係で疲れると思っているのかもしれないが、全て自分の健康のためである。
- ・ 老人クラブは 65 歳から対象だが、60 歳くらいはまだまだ元気なので、老人クラブに入るより元気な方はスポーツジムに行かれている。

◆**長寿クラブを市がどういう立場として見ているのか、そこがはっきりしないのだが、我々は福祉とは関係ないひとつの友愛団体であるという見方であれば、地域福祉計画に参画する必要もないし、我々も内輪だけのクラブでいいのではという考えもある。**

- ・ 長寿クラブを市がどういう立場として見ているのか、そこがはっきりしないのだが、我々は福祉とは関係ないひとつの友愛団体であるという見方であれば、地域福祉計画に参画する必要もないし、我々も内輪だけのクラブでいいのではという考えもある。だから、任意的なクラブはあっても太寿連に入らないという地区があるのだ。
- ・ 我々としては、市が地域づくりに本腰になってやっているのかという点で、まだ実感としてはない。老人クラブの活動が介護保険や医療費の減少にもつながると見るのであれば、組織化されていない地域に対して積極的にすすめていくという姿勢をはっきりと見せてほしい。
- ・ 市は福祉を社協にさせており、社協はひまわり会にさせている。我々太寿連は、不安定な立場にある。市にとっては、文句もあまり言わないし、いい団体だと思う。
- ・ 老人クラブも福祉を推進していくのであれば、自治会の組織に入れないとおかしいと思うが、健康推進員、福祉委員、民生児童委員、ひまわり会は組織に入っているが、老人クラブは組織から外れている自治会もある。
- ・ 市が一番しないといけないのは、団体にある程度行政の意思が通じるような組織づくりだと思う。いくらいい案を出して、計画を立てても浸透しない。福祉委員に、民生委員に、ひまわり会、老人クラブなどいろいろな専門組織はあるが、どの会にどの程度の力を入れているのか全くわからない。福祉のなかのすみ分けをやってもらいたい。全体から見る人が必要だと思う。
- ・ 一番感じるのは、福祉活動に対して太宰府市そのものが一元化されていないということである。各々の民生委員、ひまわり会、太寿連も含めそれぞれで活動しているので、どこまですればいいのかがわかりにくい。まず、太宰府市としては一元化をして、指示系統、相談などが即わかるように、PRをしてほしいと思う。

- ・ 補助金は会員数に関係なく一律である。だから、会員を増やせば増やすほど、一人当たりの取り分は少なくなるので、運営はどんどん苦しくなる。太寿連の加入団体は今半分まで減っているの、市にとって逆に良いのではと思ってしまう。

**◆よく感じるのは、今の子どもたちは安心安全に、自由に遊べる場所が少なくなっているということだ。**

- ・ 私は、太宰府南小のなかにあるコミュニティセンターでやっている、アンビシャス広場にかかわっている。よく感じるのは、今の子どもたちは安心安全に、自由に遊べる場所が少なくなっているということだ。アンビシャス広場では、自由に遊ぶのが大前提なので、お部屋で寝っ転がる子もいたり、将棋やオセロをしていたり、竹馬をしたり、走って遊びたい時は体育館を使ってもいいので、子どもたちはここにくると自由に遊べるから楽しいとよく言っている。
- ・ 学童はある程度規律があるし、公園はボールを蹴ってはダメとか、自転車に乗ったらダメとか、何してはダメという規制が大きく安心して遊べないようである。
- ・ お母さんたちにとっても、ひとりで遊ばせるのは不安だし、地域で子どもを見守りましようと言っても、地域が安全性を保てていない時代である。昔は近所の人から本気で怒られたりもしたが、今そんなことをすると親から苦情がくることもある。
- ・ アンビシャス広場では私たちが見守りをしていることを親もわかっているので、規律を守るように叱ることがあっても苦情がきたことはない。アンビシャス広場は水曜日と土曜日だけで、学童に行っている子も水曜日はアンビシャスにきている。
- ・ 公園の使い方が、規制が大きすぎて自由に遊べないので、公園でも座ってゲームをしているなど、今の子は体験が少ない。体を使って遊んでほしいが、場所がない。核家族も増えて、お年寄りから学ぶ機会もなくなっている。
- ・ 大きくなって遊具もなくていいので、近場にボールを使って遊べる公園がほしい。

**◆地域の方とのかかわりだが、密接にかかわっている子ども会もあれば、お手伝いや資金面でも助けがない自治会もある。**

- ・ 地域の方とのかかわりだが、密接にかかわっている子ども会もあれば、お手伝いや資金面でも助けがない自治会もある。
- ・ 自治会の行事に強制参加のため子ども会としての行事がメインにできていないということもあれば、逆に、子ども会だけの企画が難しいので、地域の行事に入れてもらったほうがありがたいということもある。

**◆子ども会を巻き込むのは、夏祭りなど年に何回かの行事だけだが、それに参加するのでもお母さん方はほぼお仕事をされているので大変なようである。**

- ・ 子ども会を巻き込むのは、夏祭りなど年に何回かの行事だけだが、それに参加するのでもお母さん方はほぼお仕事をされているので大変なようである。子どもにとってはかわいそうなことだ。
- ・ 子ども会への加入は地区によって違うが、任意加入のところは子ども会に入ると役員が

回ってくるので、社会体育に入る方が多い。

◆**本当は、子育て教室も地域のなかでできればと思うが、福祉というと高齢者がメインになっているので、サロンを開くにもまずは高齢者が対象の行事が多い。今の公民館の状況は、いろいろな教室が使っており1週間で空いている時間がない。**

- ・ 本当は、子育て教室も地域のなかでできればと思うが、福祉というと高齢者がメインになっているので、サロンを開くにもまずは高齢者が対象の行事が多い。
- ・ 今の公民館の状況は、いろいろな教室が使っており1週間で空いている時間がないし、子どもを集めて何かするにしても、見守るボランティアがなかなか集まらない状況にあると思うので、自治会のなかでやっていくのは難しい。
- ・ 以前は、週1回公民館を子どもとお母さんのために開放していた。しかし、子どもが小さい時にはくるが、就学して年齢が上がってくるとこなくなるので、2~3年は小さい子が地域にいて続いたが、次第に子どもたちがこなくなりいつの間にかなくなった。今はその時間に卓球やカラオケが入ってきているので、今小さいお子さんがいるお母さんがサロンを希望されたとしても、その時間をまた空けるというのは難しい。
- ・ 参加する方がいようとまいと、この時間は子育てスペースだと自治会が意識してくださらないと、続けられないと思う。

◆**自分が子育てをしていた時は、保育園ではなく親にお願いができた。近所の方といっしょに子育てができた。**

- ・ 自分が子育てをしていた時は、保育園ではなく親にお願いができた。
- ・ 私の時は近所の方といっしょに子育てができた。隣近所の年が離れた方にもよくしていただき、上の子を病院に連れて行く時は、下の子を見てもらうという関係があった。
- ・ 市は情報発信をしているようだが、受け手側に関心がなかったら情報は届かない。若いお母さんはいろいろなことに興味を持とうとせず、若い人だけ、自分たちだけと個々で動いているようである。もっと広い意味で、みんなでいっしょにやりましょうというのを感じられない。

◆**私たちが子育てをしていた頃は、近所の年上の方に相談しながら子育てをしていたが、今は何かのためどこかに集まって、そういうなかで子育ての悩みを話したり、雑談したりそういう関係をつくらないといけない。**

- ・ 私たちが子育てをしていた頃は、近所の年上の方に相談しながら子育てをしていたが、今は何かのためどこかに集まって、そういうなかで子育ての悩みを話したり、雑談したりそういう関係をつくらないといけない。
- ・ 今の若いお母さんは、子育てに自信がないのか、同じ仲間と同じ時間を共有したいというのが大きいようで、子育てに時間を使って子どもと楽しむというよりは、子育てをしているお母さんたちと楽しみたいという感じがする。
- ・ 孫も子育て関係の教室に通っていたが、早寝早起きをするようになったり、教室でお友だちや先生と遊んだり、お母さんも同じ世代のお母さんと仲良くなって、世界が広がったと言っていたのでそれはよかったと思う。ただ、そういう場をつくらないといけない

というところは、私は疑問に思う。もっと子どもとの時間をたくさん持ってほしいと思う。

◆**今のお母さんはスマホを手放せないなかで余った時間に子育てをしているように見える。何でもすぐスマホで調べて自分で解決するので、周りの人に聞こうとしない。**

- ・ 外食に行った時に隣のテーブルに座っていた親子は、お母さんがずっとスマホをしながら、3年生くらいのお子さんに脅し半分で怒っていて、今のお母さんはスマホを手放せないなかで余った時間に子育てをしているように見える。どっぴりと子育てができていない方が多いのではと思った。
- ・ そういう時代なのだろうが、何でもすぐスマホで調べて自分で解決するので、周りの人に聞こうとしない。下手に口が出せないと感じる。

◆**子どもが小さい時は今しかないので、楽しまないともったいないと思うが、それより自分の時間がほしいようだ。**

- ・ 子どもが小さい時は今しかないので、楽しまないともったいないと思うが、それより自分の時間がほしいようで、保育園に子どもを預けて午前はパート、午後は自由にしたいという若いお母さんが多いようである。
- ・ 子育てを楽しんでいない方が多いと思う。
- ・ 時間に追われているので、もっとゆとりを持って子育てをしてほしい。3か月の孫がいるが、早く働かないといけないと母親が保育園を探していて、太宰府市の保育園は空きがないからと大野城市で探していた。

◆**相模原で残念な事件が起こった。犯人は非常に身勝手な言い方をしているが、まだこういう偏見があったのかと非常にショックを受けた。こういう考えの人が一部にいるということは、やはり啓発や広報が足りなかったのだろうと非常に反省している。**

- ・ 相模原で残念な事件が起こった。犯人は非常に身勝手な言い方をしているが、まだこういう偏見があったのかと非常にショックを受けた。障がいを持っている人も持っていない人も、同じように自分の生活を楽しんで一生をまっとうする権利があるのに、障がいを持っているだけで別の見方をされる。いまだに、こういう考えの人が一部にいるということは、やはり啓発や広報が足りなかったのだろうと非常に反省している。
- ・ 知的障害者相談員をしており、手をつなぐ会の会員でもあるが、今回の事件は本当にショックだったし、障がいのあるお子さんをお持ちのお母さん方が、今回のことでどんなにショックを受けただろうと思う。言語のコミュニケーションが取れない方でも、寝たきりの方でも、長くつきあっていくと怒ったり、悲しんだり、楽しんだりしていることがわかってくる。犯人はそういうことがわからない人だったのだと思う。
- ・ 今、障がいのある人に対する法律は整備されてきたが、中身を伴っているのだろうかと思う。合理的配慮ということもあるが、その前に障がいのある人も平等であり差別をしないでほしい。差別解消法ができたが、すぐには浸透しないと思うので、障がい者プランを策定するにあたって、いかにみんなに知らせて理解してもらって、実行するかがも

のすごく大事になると思う。

◆今年から障害者差別解消法が始まっているので、いろいろな面でこれからやっていかなければいけないことはいっぱいあると思う。例えば、地域によっては「障がい者は人様に迷惑をかけるから出るな」というような風潮が、現に福岡県でもいっぱいある。

- ・今年から障害者差別解消法が始まっているので、いろいろな面でこれからやっていかなければいけないことはいっぱいあると思う。例えば、地域によっては「障がい者は人様に迷惑をかけるから出るな」というような風潮が、現に福岡県でもいっぱいある。
- ・数年前にあった事件だが、佐賀市で知的障がいのある人が車道を自転車で通っていて、若いお巡りさんから止められて注意を受けた時に笑っていたためにお巡りさんも人間なので頭にきたのだろうが、捕まえようとしたら反抗されたので殴りかかって、結果的に亡くなってしまったということがあった。こういう問題も、障がいのある人が社会参加するためには、このような人もいるということを、皆さんに知ってもらわないと理解を得られない。特に、公共の機関の方々にはまず教育をしてもらいたい。我々障がいのある人自身の活動も必要だが、やはり国や県など行政が、絵に描いた餅ではなく、もう少し実際の差別解消に向けた現実的な法律に切り替えていく政策が、もっと必要になると思う。

◆地域のなかでの些細な困りごとや、やってほしい・やってほしくないということについては、まずは地域の公民館などでやって、それから少しずつ広げていったほうが説得力があると思う。地域の方ともコミュニケーションが取りやすくなると思う。

- ・人権に対する思いや、皆さんとのコミュニケーションについてわかってほしいということで、太宰府市としては人権講座をやっているが、地域のなかでの些細な困りごとや、やってほしい・やってほしくないということについては、まずは地域の公民館などでやって、それから少しずつ広げていったほうが説得力があると思う。
- ・合理的配慮と言う前に、障がいへの理解を深めていけるような場所づくりをしてほしいので、そのために行政が私たちとの橋渡しをしてくださったらと思う。そうすると、地域の方ともコミュニケーションが取りやすくなると思う。

◆障害者差別解消法が始まった年なので、合理的配慮は大事になってくると思う。バリアフリーもかなりよくなってきているので、もう少し建物などの面で努力をしてほしい。

- ・障害者差別解消法が始まった年なので、合理的配慮は大事になってくると思う。バリアフリーもかなりよくなってきているので、もう少し建物などの面で努力をしてほしい。中央公民館は特に車いすでは行けないし、市役所のトイレも多目的トイレがないのでせめて1階にだけでもつくる努力をしてほしい。今つくっている体育館は、事前に協議の場があったのでエレベーターもトイレも立派なものができる。
- ・4年ほど前だが、マップをつくるために各自治会の公民館をまわったことがあったのだが、バリアフリーができている箇所は2~3か所しかなかった。トイレどころか入口さえ入れないほどだった。高齢者の方にとっても、トイレが和式なので行事に参加できないと言われる方が結構いた。これから、いろいろな面で合理的配慮が必要になってくる

と思う。災害が起きた時は避難場所になっているので、問題である。

◆我々が今一番困っているのは、支援者が足りないことである。ボランティアの方には交通費だけでやってもらっている。もう少し福祉に関するボランティアの意識を高める方策が必要だと思う。いかにボランティアを養成するかということをお願いしたい。

- ・ 我々が今一番困っているのは、支援者が足りないことである。ボランティアの方には交通費だけでやってもらっている。ところが、人が足りないので、ここに通っている人たちの十分なお世話ができていない。もう少し福祉に関するボランティアの意識を高める方策が必要だと思う。
- ・ 太宰府市のNPO・ボランティア支援センターと社協のボランティアセンターがうまく噛み合っていないので、熊本地震のような災害が起こった時、ハンデを持った人を十分にケアできるのか心配になった。いかにボランティアを養成するかということをお願いしたい。
- ・ 私は、五筑会という精神の家族会に入っており相談などの活動をしているが、やはり人手が足りないと感じている。
- ・ 今、話があったように人手不足で、うちのスタッフだけではやりきれない。以前は、ボランティアというのは障がいのある人のために一生懸命やるというのがボランティアの意味だったが、今は子育てボランティアや高齢者ボランティアなどが多く、障がいのある人のためにボランティアをしてくれる人が非常に少ない。
- ・ 太宰府市のNPO・ボランティア支援センターに行っても、社協に行ってもお願いしてもよこしてくれない。
- ・ 地元大学からの学生ボランティアの派遣について、社協でそういう企画を立てていくつかの大学をお願いをして7年くらいやったのだが、学生がなかなか集まらなかった。小学校4～6年生を対象に子ども福祉大使として、いろいろな活動を30人くらいの大学生が主体となって企画するというものだったが、平日は難しいし、土日もアルバイトや研修など予定があって、単発で何回かはこられても継続的にはできないということだった。2月に行っている市の人権まつりなどの特定の行事にはきてくれるが、継続的なものは参加がだんだん減ってくる。
- ・ ボランティアについてだが、高齢者ばかりで若い人たちが入ってこないで、これからどうなっていくのかという気がしている。

◆生活する上での一番の困りごとは、交通手段である。精神の場合は車の運転が制限されている。まほろば号の運賃が無料になるのは1級だけだが、2級3級の方のほうが社会参加をしているのでバスを利用する機会が多い。

- ・ 生活する上での一番の困りごとは、交通手段である。息子は免許を持っており事故を起こしたこともなく支障は全くないのだが、精神の場合は車の運転が制限されている。
- ・ 交通の便についてだが、精神障がいは子どもの頃からなるわけではないので、精神障がいの方は免許を持っている方が多い。しかし、病院に行くと自粛しなさいとはっきり言われるので、免許を持っていても運転する人は非常に少ない。そういう面で、一般の方

と違うということを含んでほしい。

- ・今は、まほろば号の運賃が無料になるのは1級だけだが、2級3級の方のほうが社会参加をしているのでバスを利用する機会が多い。西鉄バスの減免措置も精神障がいについてはないので、そういう面でまほろば号に関しては特に率先して精神障がいの2級3級の方まで無料にしてもらえるような配慮をお願いしたい。
- ・私は、ここで軽作業をする時に見守りをしながら、いっしょに作業をすすめていくお手伝いをしている。私も、利用者の方がここにくる時にまほろば号でこられたらいいなと思っていた。わずか100円200円でも回数を重ねると大変なので、せめてここにくる時だけでも市が援助してくれたらと思う。

◆自分たちが年を取ってからのことだけは心配である。家族への支援は高齢者がほとんどで、これからの子どもの将来が気がかり。

- ・子どもが重度の知的障がいだが、今のところ両親とも元気なので楽しんで生活している。しかし、自分たちが年を取ってからのことだけは心配である。
- ・家族への支援は高齢者がほとんどで、これからの子どもの将来が気がかりなので、病院と行政がしっかり連携して、病状に応じて退院してから仕事に就けるまでの道筋ができるような制度がほしい。
- ・研修会で出ていた意見は、公的なグループホームをつかってほしいという要望である。どうしても自分たちでやるとなると、経済的な面でも人的な面でも大変で、親が交替で見るというのも限られている。ある団体の代表をずっとされていた方が、今個人的にグループホームを立ち上げようとされていて、場所も決まって、家もだいたい決まっているが、どうしても人が10人集まらないとできないので、もう少しというところで忙しくがんばっている。

◆3障がいの方がいっしょにやることで、精神の人もほかの方と話す機会ができるのでそういう仕事が大事だと思う。

- ・3障がいの方がいっしょにやることで、精神の人もほかの方と話す機会ができるのでそういう仕事が大事だと思う。
- ・知的の方と精神の方は、市役所の地下売店に入れるようになったので、そこで野菜を運んだり、レジを売ったり研修や訓練ができて、本人たちも楽しいと言っている。そういう社会参加ができる機会をもっと増やしたい。
- ・今は、ここで仕事をさせてもらっているが、ここは3障がいなので精神の子たちと生活しているなかで、相談を受けたりいろいろ話を聞いたりするが、病気のことなどわかる人がいないので、ケアや専門家の方にいてもらいたいと思う。専門家がいれば、精神の人も働きやすくなると思う。
- ・私たちは仕事を3障がいですべてしているので、なるべくいっしょに作業ができるような仕事を継続的にほしいのだが、仕事がない時期がある。

◆これから課題だと思っているのは、できるだけ市内のいろいろな活動をしている方々と、何らかのつながりをつくっていくということで、それが今はまだ少ない。まずはたくさんあるいろいろな障がい者団体と仲良くして、情報交換をしていきたい。

- ・ これから課題だと思っているのは、NPO 法人太宰府障害者団体協議会ができるだけ市内のいろいろな活動をしている方々と、何らかのつながりをつくっていくということで、それが今はまだ少ない。まずはたくさんあるいろいろな障がい者団体と仲良くして、情報交換をしていきたい。
- ・ 本当は、福祉関係団体が入る福祉センターがひとつあれば、そのなかでコミュニケーションも取りやすいし、それぞれが個性を發揮しながらつながれるのだと思うが、そういうわけにはなかなかいかない。
- ・ 精神障がいの家族会は白木原にあるが、子どもが病気になって親はどうしていいかわからず、誰にでも話ができない状況で、やっと我々のところにたどりついて話ができると、ほとんどの方が思いを涙ながらに話される。我々のところにきて安心されるのだと思う。そういうのが、太宰府にも必要だと思う。



**太宰府市の地域福祉に関する  
関係団体ヒアリング  
結果報告書**

---

発行年月日/平成 28 年 10 月

編集・発行 /太宰府市 市民福祉部 福祉課

〒818-0198

福岡県太宰府市観世音寺一丁目 1 番 1 号

TEL 092-921-2121

FAX 092-925-0294

---